

嶋満神社便り

令和三年二月号(第三十四号)

発行 嶋満神社奉賛会

皆様明けましておめでとうございます。皆さま。

今年も会員の皆様にとつて幸せな年となりますよう、お祈り申し上げます。

さて昨年大晦日に、役員さん方の手により例年のようにきれいに飾りをして頂き、無事新年を迎えることができました。

お供えを頂戴しました皆様にも感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの猛威もなかなか収まりそうにありませんが、感染拡大防止という観点で言えば、私たち一人一人が自分のことだけでなく他人を思いやるきっかけになったのではないかとも思います。この上はワクチンとともに、皆の心がけで、早く収束して、元の日常が早く戻ってほしいものです。

お菓子の神様 本家本元

本誌第二十二号でご紹介した和歌山県の橋本神社を覚えておいてでしょうか。(平成二十九年四月号)

祭神は「田道間守の命」(タジマモリノミコト)。但馬の国出石神社に祀られている天日槍命(アメノヒボコノミコト)の子孫、ということでした。

垂仁天皇の命により常世の国から苦勞して不老長寿の靈菓「橘の実」を持ち帰った人で「お菓子の神様」と呼ば



れているということをご紹介しました。

「アメノヒボコ」はその名の通り「太陽神」転じて「農業神」の性格を持ちます。またヒボコは「日矛・日槍」から鉄に関わる渡来人との関係もうかがわれます。

そしてまた本誌第十八号(平成二十八年一月号)や第二十六号(平成三十年七月号)で紹介した朝鮮の王子、ツヌガアラシト(朝鮮から敦賀へやってきて敦賀の語源となった)と同一人物視する見方もあると言いますから、守備範囲はグッと広がって来ます。

そのヒボコの五世の孫がタジマモリであり、豊岡市にある中嶋神社に「お菓子の神様」としてお祀りされているのです。もちろん、こちらがタジマモリをお祀りする全国の総本社です。

「タジマモリ」が「但馬」の地名の由来であることは言うまでもありません。

この中嶋神社のお祭り「菓子祭」には全国の菓子業者の方がお参りされ、コロナで中止になる以前、その前日祭にはおいしいスイーツを目当てに市の中心部は黒山の人出となる賑わいでした。今は「お菓子」という象徴的なとらえ方のみが一般的となつていますがこのタジマモリさん、渡来系族の三宅氏の祖と言われ、ヤマト政権の直轄地「屯倉」(ミヤケ)の管理者であることから、但馬から丹波、若狭にかけての日本海側をその技術を持って拓き、発展させた渡来人と中央政権との関わりが読み取れます。古代丹波(丹後はのちに丹波から分かれた)、但馬、若狭は大陸の最先端の文化を受け入れる「先進地」だったので、こういつた話題には事欠きません。



さてタジマモリさんが橘の実を持ち帰った浜が現在の京丹後市、夕日が浦であり、地名の「木津」は「橘」の音読み「キツ」に由来するとも言われていますからスイーツのお祭りにも深い歴史ドラマがあるのですね。

資料出典 「古代史の謎を歩く」 宝島社

とよおかスイーツギャラリー ウェブサイト